

# 日刊建設通信新聞社セミナー BIM/CIMからつながるインフラDXの未来

日刊建設通信新聞社は2024年12月にオートデスクと共催し、東京都千代田区のJ Pタワーホール&カンファレンスで「インフラDXの未来を考える」をテーマとしたセミナーを開いた。国土交通省から森下博之大臣官房参事官(イノベーション担当)と小林正典総合政策局社会資本経済分析特別研究官のほか、小澤一雅政策研究大学院大学教授、塩谷智基京都大学大学院特任教授が登壇し、国土交通省のBIM/CIM原則化を推進するインフラDXの向かうべき方向性などについて考え方を述べた。会場には200人を超える来場者が詰めかけた。



## パネルディスカッション「インフラDXの未来を考える」



(左から) 塩谷氏、小林氏、森下氏

パネルディスカッション「インフラDXの未来を考える」は、国土交通省の森下博之大臣官房参事官(イノベーション担当)と小林正典総合政策局社会資本経済分析特別研究官(イノベーション担当)と小澤一雅政策研究大学院大学教授、塩谷智基京都大学大学院特任教授が登壇し、国土交通省のBIM/CIM原則化を推進するインフラDXの向かうべき方向性などについて考え方を述べた。会場には200人を超える来場者が詰めかけた。

## 生産性向上、省人化に還元する段階に

国土交通省は、生産性向上と省人化を促進する効果が見込まれる。2022年8月に、インフラDX推進に向けた施策として「インフラDX推進計画」を策定し、2025年度までに生産性向上と省人化を達成する。この計画は、インフラDXの推進を促進するための施策を盛り込み、2025年度までに生産性向上と省人化を達成する。この計画は、インフラDXの推進を促進するための施策を盛り込み、2025年度までに生産性向上と省人化を達成する。

## 協調領域で共通プラットフォーム

国土交通省は、協調領域で共通プラットフォームを構築する。このプラットフォームは、インフラDXの推進を促進するための施策を盛り込み、2025年度までに生産性向上と省人化を達成する。このプラットフォームは、インフラDXの推進を促進するための施策を盛り込み、2025年度までに生産性向上と省人化を達成する。

## 弾性波を利用した3次元の可視化へ

弾性波を利用した3次元の可視化は、数ヶ月に一度、100以上の関係者が集まる「弾性波」をテーマにしたセミナーが開かれた。このセミナーは、弾性波の可視化に関する最新の技術や、その活用方法について詳しく説明された。

## 3次元で設計する流れに変える

3次元で設計する流れに変える。これは、インフラDXの推進を促進するための施策を盛り込み、2025年度までに生産性向上と省人化を達成する。この流れは、インフラDXの推進を促進するための施策を盛り込み、2025年度までに生産性向上と省人化を達成する。

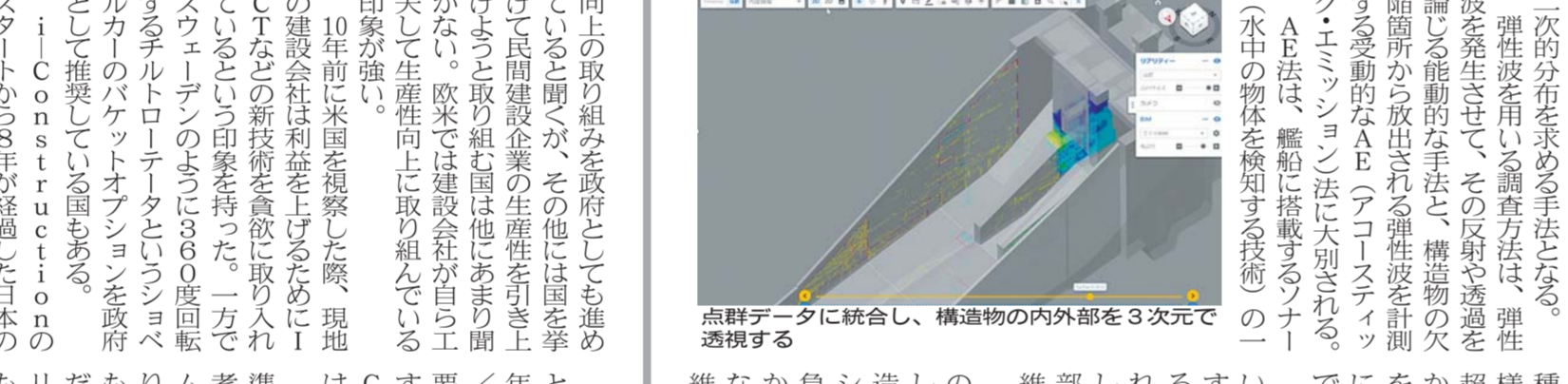
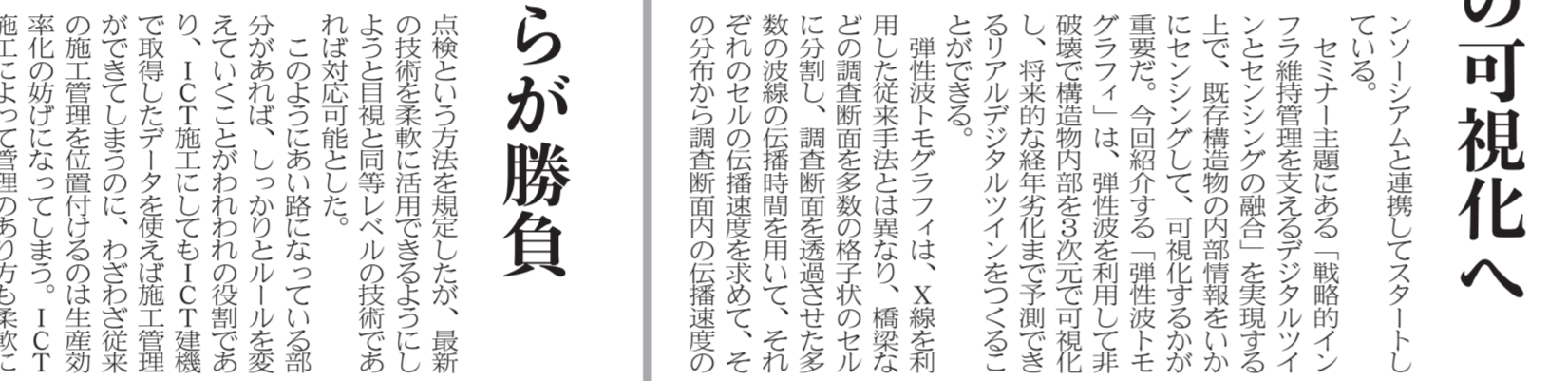
## 戦略的インフラ維持管理を支えるデジタルツインとセンシングの融合



京都大学成長戦略本部インフラ先端技術産学共同研究部門特任教授

弾性波を利用した3次元の可視化は、数ヶ月に一度、100以上の関係者が集まる「弾性波」をテーマにしたセミナーが開かれた。このセミナーは、弾性波の可視化に関する最新の技術や、その活用方法について詳しく説明された。

## インフラDX時代の動き方



インフラDX時代の動き方。これは、インフラDXの推進を促進するための施策を盛り込み、2025年度までに生産性向上と省人化を達成する。この動き方は、インフラDXの推進を促進するための施策を盛り込み、2025年度までに生産性向上と省人化を達成する。

## インフラDX推進に向けた官民連携によるインフラ政策の取組



国土交通省総合政策局社会資本経済分析特別研究官

インフラDX推進に向けた官民連携によるインフラ政策の取組。これは、インフラDXの推進を促進するための施策を盛り込み、2025年度までに生産性向上と省人化を達成する。この取組は、インフラDXの推進を促進するための施策を盛り込み、2025年度までに生産性向上と省人化を達成する。

## あらゆるるデータを官民で効果的活用

あらゆるるデータを官民で効果的活用。これは、インフラDXの推進を促進するための施策を盛り込み、2025年度までに生産性向上と省人化を達成する。この活用は、インフラDXの推進を促進するための施策を盛り込み、2025年度までに生産性向上と省人化を達成する。

## 国土交通省におけるインフラ分野のDX・i-Construction 2.0について

国土交通省におけるインフラ分野のDX・i-Construction 2.0について。これは、インフラDXの推進を促進するための施策を盛り込み、2025年度までに生産性向上と省人化を達成する。この内容は、インフラDXの推進を促進するための施策を盛り込み、2025年度までに生産性向上と省人化を達成する。

### AUTODESK Construction Cloud

## 連携を通じて高品質な建築を実現

Autodesk Construction Cloudは、設計、施工から維持管理に至るあらゆる段階でワークフロー、チーム、データを連携させ、リスクの軽減、効率の最大化、利益の向上を実現します。

オートデスク株式会社  
〒105-6308  
東京都港区虎ノ門1-23-1 虎ノ門ヒルズ森タワー8階

お問い合わせ先: [acsjapaninquiry@autodesk.com](mailto:acsjapaninquiry@autodesk.com)  
建設業向け統合プラットフォーム Autodesk Construction Cloud  
URL: <https://construction.autodesk.co.jp>

### AUTODESK

## 建築設計、土木インフラ、施工に対する統合BIM、CIMツール

Autodesk Architecture, Engineering & Construction Collection は、建物設計、土木インフラ設計、建設・施工のほか、これらの分野が相互に関連するプロジェクトに欠かせない基本ツールをまとめて手頃な価格で提供します。

導入のご相談  
フリーダイヤル **0120-430-140**  
9:00-17:30 (土日祝日、年末年始を除く)  
email: [Japan.AEC.InsideSale@autodesk.com](mailto:Japan.AEC.InsideSale@autodesk.com)  
<https://www.autodesk.com/jp>

コレクションに含まれる主なソフトウェア

Revit	Navisworks Manage	AutoCAD	AutoCAD Raster Design
Civil 3D	Vehicle Tracking	AutoCAD Map 3D	AutoCAD モバイルアプリ
InfraWorks	Dynamo Studio	AutoCAD Plant 3D	Autodesk Docs
3ds Max		AutoCAD Architecture	

Autodesk および Autodesk ロゴ、3ds Max、AutoCAD、Navisworks は、米国および/またはその他の国々における Autodesk, Inc. の登録商標、商標、または特許です。その他のすべてのブランド名、製品名、または商標は、それぞれの所有者に帰属します。この文書は、Autodesk によって提供されたものであり、Autodesk は、本製品の性能や価格、またはその他の事項について責任を負いません。また、本書には誤植または図表の誤りを含む可能性があります。これに対処して当社では責任を負いませんのでご了承ください。©2025 Autodesk, Inc. All rights reserved.